

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

舞鶴市長 鴨田 秋津

市町村名 (市町村コード)	舞鶴市 (26202)	
地域名 (地域内農業集落名)	岡田地区 (下漆原)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 7年 1月 27日 (第 1 回)	

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2：「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

下漆原営農組織を設立し、機械の共同化や集落全体で営農するための仕組みづくりを行っている。
多面的交付金等を活用し獣害フェンスの設置を行い、耕作地の保安全管理や有害鳥獣対策に取り組んでいる。
管理者の高齢化が進み地域外からの通い農家が増えている。また後継者や担い手不足も深刻化している。
現時点で営農組織に共同の機械がないため、共同機械の導入が課題となる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

栽培作物については、水稻を中心に耕作を行う。
機械の共同化を行い、今後、耕作が困難と思われる農地については、営農組織を通して集落全体で守っていく必要がある。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	10.35 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	10.35 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

地域計画の対象地は農振農用地を基本とする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針	既に農地中間管理機構を利用して営農組織や耕作意欲のある者への集約化を進めている。
(2) 農地中間管理機構の活用方針	地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。
(3) 基盤整備事業への取組方針	ほとんどは場整理済み。大規模な基盤整備事業の取り組み予定なし。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針	新規就農等への受入態勢を整える。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針	特になし。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①頻繁に有害鳥獣が出没するため、柵やメッシュ柵の設置・管理を行う。
- ⑦多面的・中山間直接支払交付金を利用して、地域内農地の保全に努める。